展示室２ **宮崎の美術** －めでたづくし

令和6年度 宮崎県立美術館 コレクション展第４期
令和7年 1月 9日 ～ 4月 8日

明治期以降、日本の美術は急激な西洋化の波にさらされます。日本の洋画家たちは、西洋画の写実表現や遠近法などを取り入れ、独自の表現を求めて模索を続けました。このような状況下で、国が主催する文展が創設されます。本県の洋画家では、西都市出身の塩月桃甫が、大正5（1916）年に文展入選を果たしました。また、都城市を代表する山田新一は、大正14（1925）年に文展を前身とする帝展に初入選し、中央画壇で活躍しました。一方、伝統的な日本画の世界においても、西洋画の要素や特徴を取り入れた新しい「日本画」への取り組みが進みました。本県を代表する日本画家として、文展で受賞を重ねるなど日本画界をリードした都城市出身の山内多門、同じく都城出身で、大正4（1915）年の文展において初入選で褒状を受けた益田玉城が挙げられます。

ここでは、これら宮崎県を代表する画家たちの作品を中心に紹介するとともに、日本で吉祥とされる縁起のよいモティーフに注目した特集展示も行います。本県出身やゆかりの作家による多彩な作品をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	橋口　竹夫	1889～1956	日本橋附近	1935（昭和10）頃	50.7×62.3	水彩
2	橋口　竹夫	1889～1956	ニコライ堂	1934（昭和9）	52.4×61.1	水彩
3	塩月　桃甫	1886～1954	ボタンの花	1950（昭和25）	24.3×33.3	油彩
4	塩月　桃甫	1886～1954	イチゴ	1946（昭和21）	24.2×33.3	油彩
5	塩月　桃甫	1886～1954	安井息軒生家	1950（昭和25）	38.0×45.8	油彩
6	山田　新一	1899～1991	モレ橋畔	1983（昭和58）	38.0×45.5	油彩
7	山田　新一	1899～1991	裸婦	1970（昭和45）	130.1×97.0	油彩
8	小池　鐵太郎	1906～1990	針仕事	1949（昭和24）	91.5×73.4	油彩
9	小野　彦三郎	1912～1971	ラセーヌ	1954（昭和29）	60.0×72.7	油彩
10	塩月　桃甫	1886～1954	七福神	1946-54（昭和21-29）	48.3×45.4	水彩
11	岡部　南圃	1807～1873	猪白蛇図	不明	各28.5×40.0	日本画
12	岡部　南圃	1807～1873	富士画	不明	47.1×74.0	水墨
13	松山　祐利	1916～2006	志野茶碗　銘　富士	1970（昭和45）	9.9×13.0	陶器
14	図師　舟堂	1828～1910	鷹図	不明	36.2×39.1	日本画
15	塩月　桃甫	1886～1954	濁醪一盞醉醺々	1946（昭和21）	25.6×38.8	水彩
16	益田　玉城	1881～1955	元禄美人	不明	135.0×49.2	日本画
17	益田　玉城	1881～1955	美人立姿	不明	125.3×41.8	日本画
18	不明		染付牡丹文鉢	19世紀	30.6×52.4	磁器
19	山内　多門	1878～1932	松竹梅	不明	各154.4×341.4	水墨
20	根井　南華	1883～1960	旭日図	不明	115.8×36.2	日本画
21	松山　祐利	1916～2006	信楽茶碗　銘　日輪	1964（昭和39）	5.0×15.3	陶器
22	能勢　一清	不明～1857	日の出鶴	不明	108.2×46.2	日本画
23	図師　舟堂	1828～1910	寿老人	1904（明治37）	103.4×59.4	日本画
24	秋月　可山	1867～1932	鍾馗之図	1902（明治35）	41.7×38.0	日本画